

ゼロ・ウェイスト 円卓会議 会議録

部 会 名	ゼロ・ウェイスト円卓会議		記録者	池崎(環境モデル都市)
開催回数	第6回			
開催日時	平成21年11月9日(月)18時30分～20時50分			
開催場所	クリーンセンター			
出席者	所属	名前	所属	名前
	熊本学園大	宮北	ごみ減量女性連絡会議	永野
	熊本学園大	藤本 延	水俣自然学校	小里
	エコタウン協議会	田中	環境対策課	久木田・岡本
	婦人会	前田	クリーンセンター	福田
	リサイクル推進委員	桑畑	環境モデル都市推進課	川野・徳富・池崎
	出席者 計			13 名
欠席者	水光社	廣田	市議会議員	西田・中原
	エコネットみなまた	山下	商工観光室	光田
	茶生産者	松本	教育旅行プランニング	森山
	欠席者 計			7 名
内 容	1. 前回の確認、環境モデル都市推進課の事業報告等 前回の確認:会議録参照。 ①環境モデル都市推進委員会の報告 10月19日に環境モデル都市推進委員会があり、各円卓会議の報告や環境モデル都市フェスタのこと等が話し合われた。推進委員会のなかで、副市長から、来年度取り組む予定の円卓会議の事業で予算が必要なものがあれば、出してもらいたいとの話があった。今日の最後に、簡単に意見をいただきたい。 ②市民講座エコ新聞バッグづくり 10月27日にふれあいセンターで新聞紙を使ったエコバッグづくりを開催した。講師には、熊日東販売店センターの釜さんをお招きした。当日は一般の参加者が12名程度で、わいわいとした雰囲気の中、新聞バッグを作成し、作成したバッグの中に、ふかし芋を入れて持ち帰っていただいた。平日の昼間に行ったためか、主婦層の参加が多く、この時間帯に市民講座を行う必要性も感じた。 2. ゼロ・ウェイスト宣言(案)について ■ゼロ・ウェイスト(ZW)宣言案は次の3部から構成されている。 ①前文:なぜZWをするのか? ②水俣が目指すZWの姿 ③宣言文 構成はこのとおりでよいか。⇒一同承認。 進行役:ZW宣言案について、意見等はないか。 ■議論1.「2026年までに埋め立てごみをゼロにします」 ⇒2026年までに埋め立てごみをゼロにするという根拠はあるのか。 根拠もないまま数値目標を立てるのは無責任ではないか。 実際にどのような埋め立てごみがあるのか、種々の取組によって削減できるごみの量等を調べ、きちんとした見込みに基づいて数値目標を立てるべきではないか。 ○ごみをゼロにするというのは、みんなが安心して暮らせる社会をつくるための手段の一つ。数値目標を立てることによって、それを達成するための方法(短・中・長期目標)を考えることができる。 市役所、クリーンセンターだけでなく、事業所、水俣市民、みんな考えていくそのプロセスが大切。そのための「宣言」。 ○埋め立てをゼロにするというよりは、ごみとして出さないということ。根本的に生活・社会の仕組みを転換するという意味が込められている。そのためには、企業が生産した製品を回収することを義務付ける国の規制等も必要。水俣市やゼロウェイスト自治体で、国に訴えかけていかなければならない。 国や他都市とも話し合いをしながら、全体としてZWを進めていく。			

内 容	○宣言とは、一種の決意表明。いつまでにどうする、という具体的な数字があったほうが、より決意を明らかにすることができる。視点や見方を変えていく必要がある。 例えば、“水俣ではこのような容器は買いません”といった運動など。 まずは、レジ袋の有料化などのように、できることから取り組んでいく。 ○宣言の中に、「理想」と「現実」を織り込んでいけば、より宣言が強いものとなる。 ○2026年は、水俣病の公式発見から70年目の年。 ■議論2.「2026年までに埋め立てごみをゼロにします」 ⇒ 燃やすごみをゼロにする、というのは宣言に入れるのか。 ○ごみを焼却すると、20%は焼却灰として出てきて、それが埋め立てられる。なので、“燃やさない”と“埋め立てない”を合わせて考えた方がわかりやすいのではないかな。 ただし、“燃やさない”というのは、現実的ではない。 焼却や埋め立てに頼らない、という表現にしたらどうか。 ■水俣が目指すZWの姿 進行役：水俣が目指すZWの姿については、何か意見はないか。 ○事業所も、行政も、みんな水俣市民という意識で取り組んでいく必要がある。そのためには、ごみをゼロに近づけるための姿を示してあげる必要があるのではないかな。 ○ごみを分別するという前の段階で、ごみを出さなくするということをもう少し強く言った方がよいのではないかな。ごみの分別から減量へという意識は、市民の意識の中にあまりない。「分別をちゃんとやらんば」から、「ごみを減らさんば」というふうに、市民の意識へ働きかけるような一文があったほうがよい。 ○私・私の家・私の地区のZWについては、ごみ女連でよく言っている“ごみを家庭に持ち込まない、大切に使い続ける、捨てる時にはリサイクル・リユース”というような内容をいれてもらいたい。 ○事業所も行政も、みんな水俣市民であるという意識で取り組んでいかなければ。 ○“循環”がひとつのキーワードだと考えている。ZWは「羅漢の和」で、いろんな考えや形があってもよいと思う。あまり具体的な項目を挙げすぎると、それに反する意見もでてくるのでは。いろんなZWがあってもよい。 ○“水俣病の教訓を活かして”の水俣病の教訓とは何か。 ・汚染された自然環境は、簡単に元には戻らないということ。経済成長を追い求めた結果、水俣病が起こった。原点に立ち返る必要があるのでは。 ・廃棄物で生物の基盤を壊してはならない、ということ。海、山、川をごみ箱にしてはいけない、水・食べ物・ごみに気をつけるということ。 ※今回出た意見を踏まえて、11月12日の正午までに、改訂版を円卓会議メンバーに送るので、意見がある場合はその翌日までに返信すること。 3. 環境モデル都市フェスタについて 事務局：フェスタの前日に、パネルディスカッションに参加する自治体の首長等を招いての懇親会を企画している。フェスタ当日とあわせて、ぜひ参加をお願いしたい。 フェスタ当日には、各円卓会議の取組を紹介するパネルを展示する予定だが、パネルに入れてもらいたい内容等はあればご意見をいただきたい。 ○どのようなメンバーでやっているかがわかるように、メンバー構成を入れてほしい。 また、メンバーも固定化しているわけではなく、募集しているというメッセージも。 ○私のZW宣言、のようなものもあればよい。 ○ZW宣言に至るまでの議論や、ZW宣言をした後もまだまだ議論は続く、ということ。 4. 来年度の事業予算について 事務局：来年度の予算編成時期なので、来年度のZW円卓会議関係の事業で予算が必要なものがあればあげてもらいたい。 ○ZWの周知・実現のためのパンフレット等(全戸配布)の作成費用が必要では。 ○給茶スポットを具体化するための資金 ⇒ 事務局と後日相談。
次回の日程	12月7日(月) 18時半～ @クリーンセンター